

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	建築人間工学小委員会	主 査 名： 建部謙治
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会	委員長名： 服部岬生
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築人間工学小委員会は、人間と環境との関係の解明を目指し、建築、環境の安全性や快適性を実現するために、それに必要な各種データの蓄積や更新、研究手法や研究分野の開拓を図ることを目的とする。また、全国に散らばる建築人間工学系の研究者間のネットワーク化を進め研究交流を促進させる。	
委員構成 (委員名(所属))	建部謙治(愛知工業大学)、吉村英祐(大阪大学大学院)、渡辺英俊(文化女子大学)、石神忍(活水女子短期大学)、白石光昭(小山工業高等専門学校)、古賀紀江(前橋工科大学)、後藤義明(積水ハウス㈱)、須田真史(国立保険医療科学院)、武田雄二(愛知産業大学)、田中直人(摂南大学)、布田健(独立行政法人建築研究所)、林田和人(早稲田大学理工学総合研究センター)、萩原一郎(国土交通省国土技術政策総合研究所)、堀田明裕(千葉大学)、森一彦(大阪市立大学)	
設置 WG (WG 名: 目的)	建築人間工学基礎資料集整備 WG: 建築人間工学にかかわる新規データの収集と整理・更新及びその体系化の検討を行うとともに、建築人間工学基礎資料集の執筆・出版と講習会の企画を行う。	
2003 年度予算	317,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会の開催 4 回(2003.5.9, 9.6, 10.1, 2004.3.9、平均 10 名参加) 第 41 建築人間工学研究会(2003.10.1、約 36 名参加)、第 42 建築人間工学研究会(2004.3.9、約 45 名参加)の開催、WG の開催 5 回(2003.4.25, 6.16, 9.6, 10.1, 12.10、平均 10 名参加)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本小委員会では、特に若手研究者の育成を目指して、小委員会、WG、研究会のいずれもできるだけ全国各地で開催し、建築人間工学研究の啓蒙を図っている。また研究会については研究会と見学をセットにし、第 41 建築人間工学研究会人をはかるシリーズ 3「人間の生理・心理をはかる」(2003.10.1)では大阪大学の建築環境工学部門の研究施設を多くの人々に紹介できた。第 42 建築人間工学研究会「住宅内事故を科学する」(2004.3.9)は東京で開催したが、福祉や医療などの建築以外の参加で幅広い領域の議論ができた。 一方、WG においては建築人間工学基礎資料(文献・論文)の収集・整理を行い、約 300 の建築人間工学関連の文献リストを作成し、データベース化を図った。なお、WG の開催に当たっては 20 分トークと題して、個々の委員の活動状況を紹介し合い、委員間の情報交換と親睦を図っている。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画に対して概ね計画を達成することができた。その成果は地方開催や見学による研究者間の交流を生み、WG の活動は当委員会が今後果たそうとする社会的な使命を推進する上でもこれからの発展が期待できる。しかし、当初目標とした建築人間工学基礎資料整備に係る執筆・出版と講習会の企画については行えなかった。
その他評価すべき事項	小委員会が 20 年目を迎えるにあたって取り組んできた社会に貢献できる委員会のあり方を、研究会の今日的なテーマ設定やそのシリーズ化、また WG と連携した取り組みによって今後大きな成果が期待できる。